

令和4年度第一回産業衛生技術部会拡大幹事会 議事録（案）

日時： 令和4年（2022年）5月27日（金） 11:10～12:10

場所： ザ クラウンパレス新阪急高知 星の間 および ZOOM でのオンライン開催

参加者：[事務局] 橋本, 中原, 山野, 齊藤, 宮内, 中村（修）, 原, 飯田(*) [幹事] 池田, 森(*), 伊藤（昭）, 田畑, 榊原, 長見(*), 竹内(*), 東, 田口(*), 浜井, 光吉, 保利, 大藪(*) [監事] 加藤(*) [企画運営委員] 大久保, 川上, 久保田(*), 津田(*), 藤間, 山内 [担当理事] 土肥, 上島 (*)はオンライン参加。

1. 長年、当部会の事務局を務められた早稲田大学の村田充先生がご逝去されたこと、ならびに本日の総会にて黙祷を行うことが報告された。
2. 前回議事録の確認が行われた（特に修正意見はなし）。
3. 令和3年度活動報告ならびに令和4年度活動計画についての説明がなされた。
4. 会計報告ならびに予算案についての説明があり、監査の結果適切に執行されている旨、報告があった。
5. 予算残高の適正化について、公益社団法人として求められている期末残高を大きく超過していることが報告された。COVID-19に伴うオンライン化により、従来の主たる支出であった会議費や旅費の支出がなくなっていること、ならびに非学会員の演者への謝金、旅費、参加費等を学会（協議会）事務局側が負担するケースが多くなっていることが要因としてあることが報告された。効果的な予算の使途の案として、海外の有用なコンテンツ（例：OHTAの教育教材）の和訳が事務局より提示され、その方向で予算を使うことについて理事会の承認が得られた。OHTAの教育教材については膨大な量があるが、部会として優先度の高いものから着手する方向で考えたい。これ以外にも有効かつ有益な使途について、引き続き提案をお願いしたい。

この件について、下記のような意見があった。

- 自律的化学物質管理への移行に伴い、講習会、研修会等を行う機会が増えることが想定されるが、地方によっては適当な講師がいないことが考えられる。その際の旅費として確保しておくことは必要だろう。
 - 地方会の活動を活発に行うために支出していただくことは有用だろう。地方会 Web ページの構築・運用や、ZOOM 年会費、チラシの印刷代、会議の際の弁当代等、検討して欲しい。
 - 部会として、ANOH（アジア産業衛生ネットワーク）の団体会員となるのはどうか。
6. 担当理事の土肥先生、上島先生より下記の報告があった。
 - 学会としても海外との協力事業について力を入れている旨、報告があった。
 - 部会にて構築・公開している換気シミュレータ等、専門性・学術性に基じた活動が学会としても評価されている旨、報告があった。予算残高の適正化の観点からも、有用なコンテンツの提供等、是非検討して欲しいこと、その際は予算の項目や、他部会等との調整等が必要なこともあるので、引き続きコミュニケーションを密にしていきたい旨、要請があった。
 7. 各地方会からの報告として、下記の報告があった。
 - 関東地方会から、第295回関東地方会例会についての報告があった。
 - 東海地方会から、2021年度産業衛生技術部会特別企画についての報告があった。
 - 近畿地方会から、8/7に〇〇〇（うまく聞き取れず）が開催予定である旨、報告があった。
 - 九州地方会から、10月14日～15日に令和4年度九州地方会学会が開催予定である旨、報告があった。

- 四国地方会から、2021 年度については高松で溶接ヒュームをテーマに開催したこと、ならびに今年度は山口（宇部）にて 10/29～30 で予定している旨、報告があった。
 - 事務局より、オンラインで開催の際はできるだけ早めに事務局に連絡して欲しい旨、ならびに特に化学物質管理をテーマにした場合については、貴重な教育研修の機会と捉え、可能な範囲で各団体からも参加できるようにしていただきたい旨、要請があった。
8. 表彰委員会より、今年度の奨励賞についての報告があった。受賞者 2 名については、本日の総会にて表彰する予定。
9. 広報委員会より、部会 Web ページに掲載する各地方の技術部会の紹介記事を掲載したいので、後日原稿をお願いする旨、要請があった。
10. 今後の企画案について、事務局より候補の検討についての依頼がなされた。
- 化学物質管理や溶接ヒューム等は引き続き取り上げる必要があるが、化学物質以外の分野についても当部会の守備範囲のため、どのような企画が可能か、ご提案をお願いしたい。
 - 騒音について、騒音ガイドラインが出たこともあり、取り上げるのは如何か？
 - マスクの選び方や適切な着用方法等について、COVID-19 の絡みでもう少し部会として取り上げても良かったのではないかと思う。
 - フィットテスト研究会からは技術部会と協力してやっていきたいと聞いている。温熱環境研究会や他の研究会と協力しながらやっていくことも必要だろう。特に研究会は予算が足りない傾向があるため、コラボすることは双方にとってメリットがある。
 - AI 化、自動化等への展開はどうか？
 - 事務局より、企画案については、長い目で見て引き続き検討いただきたい旨、要請があった。
11. 自律的化学物質管理への移行に伴う部会の取り組みについて、本日午前中の部会フォーラムにて報告した内容にて進めたい旨の説明があった。それに対し、下記のような意見があった。
- 我々は研究者なので、教育研修というよりも、研究をベースとした話題について扱うことにより、教育効果を持たせることが良いと思う。
 - 生涯教育委員会とタイアップして、GP のセッションを設定するのも可能だろう。
 - 行政側、特に労働基準監督官のレベルアップの必要性があるのでは？
 - 労働基準監督官はあくまでも法令遵守であり、自律的管理で企業に責任が移ったものを扱ってくれるかと言われると難しいと言わざるを得ないのではないか？
 - 行政側については、技官が相当減ってきてしまっている。一方で化学物質関係の技能修習者は相当数いる。この人達を行政側がどのようにしようとしているのか。
 - 病院では医療安全についてお互いにモニタリングし合いながら行うというシステムがある。化学物質管理についても同様の手法が取れないか？
12. 部会員の拡充対策について、部会員数の現状についての報告があった。各々、部会への勧誘を進めることが要請された。また、今年は代議員選挙の年なので、部会員の代議員を増やせるよう、各地区で対策を講じていただくよう、要請があった。
13. 大久保利晃産業保健研究奨励賞ならびに酒井 CHS 振興財団 労働衛生研究助成の募集についての案内があった。いずれも昨年度が第一回であり、技術部会員の受賞者が複数名出ていることから、今年度についても引き続き積極的な応募または推薦を検討することが要請された。

以上。